

研究会の視点

- 子どもが、単元を通して実現していきたい「夢(=活動の目的)」と、現在取り組んでいる学習活動のつながりを理解し、本時に臨むことができていたか。
- 本時の学習課題が子どもたちの思考に沿った、子どもたちにとって必要感のあるものになっていたか。学習課題について思考し解決することが、その先の学習活動にどうつながっていか捉えられていたか。
- 「つかむ(教師の見取りや子どもの自覚化)→ふかめる(子どもによる焦点化や教師の手立て)」が、無理なく文脈に沿って繋がっていたか。
- 1時間の授業の時間的な見通しをもち、「ふりかえる」をしっかりと授業の中に位置づけることができたか。

4・5組(大西・今井級) 「スマイル お話とどけ隊」

【担任の意図】

野島宿泊体験学習の活動に合った人形の台詞を考え、人形になりきって台詞を言ったり、発表を見て友達や自分の良いところやアドバイスを伝えたりすることができる。

【授業の様子】

2グループに分かれ、人形を動かすことをめあてに取り組んだ。どこを頑張るのかを友達に伝えてから見合うことで、見る視点が明確になり、シールを貼り合うことで意欲的に感想やアドバイスを伝え合うことができた。全体で通し、ビデオを見て振り返ることが身に付いてきた。しかし振り返りの時間が十分に確保できなかった。時間配分が課題。



1年2組(堀級) 「あきもあそんで ぴっかぴか」

【担任の意図】

これまでの季節遊びをしてきた中から、公園で秋を見つけた。公園の中でダイナミック遊んだり、教室で「秋の物」を使ってその質感や特徴を感じたりして、存分に「秋」を楽しむ。

【授業の様子】

「どんぶりの町づくり」から「どんぐり迷路」になるなど、活動の質の高まりは見られた。「どんぐりゴマ」では、ルールを考えたり、どんぐりの種類を選んだりして、より楽しくなるようにしたり、より長く回るようにしたり工夫する姿が見られた。子どもの思いを確認し、それに沿った声をかけることが大切であった。



2年1組(小野田級) 「だいすき さいせいやさい」

【担任の意図】

これまでの再生野菜の観察から、気付いたことを話し合い、再生野菜の生命力のすごさや強さを感じ取り、もっと成長させて、たくさん収穫したいという思いをもつ。

【授業の様子】

自分の再生野菜について良く観察し、再生の条件や再生野菜の生命力のすごさや強さについて気付くことができていた。ただ、少し報告会になっていたため、クラス全体を巻き込む問い返しをして、話し合いを活性化し、気付きをより深くしたい。



3年1組（高橋級） 「目指せ、のげやマスター！」

～は虫るいの み力を伝えよう～

【担任の意図】

それぞれの爬虫類をガイドする内容について発表し、お互いに意見を出し合う活動を通して、新たな視点に気付いたり、より良い情報にしようという思いをもつ。

【授業の様子】

学習の流れが子どもの中で明確になっていなかったため、何をしなければならないのかが分かっていなかったり、いろいろな視点がある中で、絞り切れなかったりした。子どもたち一人一人が進んで、活動していけるように、見通しをもたせたり、表現させたりして進めていきたい。



4年2組（堀内級） 「味噌汁で戸部を元気に」

【担任の意図】

自分たちで作った味噌汁をヘルスマイトさんに食べていただき、感想をいただく活動を通して、自分たちが味噌汁を作ることができることに自信をもち、今後の活動への意欲を高める。

【授業の様子】

学習課題が、あいまいだったため、子どもたちがたくさんの意見が広がりすぎてしまい、クラスとしての今後の活動まで絞り切れなかった。ただ、味噌汁作りについて認めていただくことができたので、それを土台として今後の活動につなげたい。



6年2組（鈴木級） 「とべまち SMILE 防災隊」

【担任の意図】

区役所の中島さんに聞いた話を振り返って今後の活動について話し合うことを通して、避難所生活についての情報を収集するための訓練に自分たちで取り組んでいこうとする。

【授業の様子】

授業前には、子どもたちから上がった取り組みのアイデアを、座標軸をもとにして分析しようと考えていたが、想定していたよりも種類が少なく、3つのアイデアについて深く理由づけを行うような話し合いだった。そのため、座標軸を用いずに、あがったアイデアについて、「情報収集につながるのか、情報発信につながるのか」という仲間分けをすることによって活動の順序を整理した。



講師の先生から

- 本時課題が子どもにとってむずかしい。もっと分かりやすくしていく。（個別支援）
- 一人ひとりの思いを大切に、その子がどんな思いで何をしたいのかを聞き出し見取って授業づくりをしていく。（生活）
- “思いや願いの実現”これが生活科の最大の目標。それを意識して、子どもの思いややりたいことの多様性も認めつつ、単元づくり、教室環境づくりをしていく。（生活）
- 教師は、子どもが対象から学んだことを自覚するような働きかけをする。その自覚の積み重ねが大切。（総合）
- 対象と自分との物語を話すとき、本音になる。その本音を友達から「ちがうのでは」と問われるから、自分の考えや思いを本気で話したくなる。（総合）
- 子どもの話し合いが一つの方向性に向かっていったときに、その方向と異なる意見や立ち止まって考えようとする意見こそ、大切に取り上げていきたい。それによって子どもたちの見方や考え方が深まっていく。（総合）